

## 第7回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時 平成13年10月15日(月) 14:00~17:00
2. 場 所 猿沢荘 3F わかくさ
3. 出席者 委 員(敬称略) 池淵周一、澤井健二、木村 優、御勢久右衛門  
近江昌司、北口照美、伊藤章子(15:30~)  
奈良県 土木部次長(技術)、河川課長、 ほか
4. 議 事
  - (1) 第5回委員会の議事概要の確認
    - 事務局より、第5回委員会議事概要の説明。
    - 各委員により了解された。
  - (2) 生駒いかるが圏域河川整備計画(原案)の修正について
    - 事務局より、「原案と修正後の案の対比表」を説明。
    - 各委員から次の事項に関して意見があった。
      - ・前回(9月15日)の資料では案への記載の仕方が物足りない感じのところもあったが、今回は、従前に増して内容の肉付け、質的アップが図られたという印象がある。
      - ・大和川水系(生駒いかるが圏域)河川整備計画であるので、直轄の本川とのかかわりを入れたらよいと思う。  
(事務局) この計画は奈良県管理区間を対象にしていることを記述するよう検討します。
      - ・川は一体のものであり、連続しているという意味合いで、川づくりそのものについては国と県が一体というスタイルの方がよいのでは。  
(事務局) 大和川の直轄部分の整備計画が見えてきたら、整合のとれた計画づくりを見直していく必要があると考えている。
      - ・市民感覚、県民感覚では河川や水路の法律上の区分は関係なく、身近な川というのは非常に大きな関心事である。そういう意味で縦割り行政を連携させるという方向性がどこかに示せないか。  
(事務局) 河川とその他水路、普通河川との連携なども書き加えられるか検討します。
      - ・「住民の参画が求められている」という表現はとってつけたような感じがする。  
(事務局) 住民に何か義務を課すのではなく行政として住民参加が重要な課題になっているという表現に修正します。
      - ・大和川の歴史は、長い間政治権力の中心であった場所であり、川自体が全国的な存在であること。また川には信仰的な畏怖の対象としての存在がある。そういった記述が必要ではないか。また、俗称めいた語彙も見られる。  
(事務局) 先生のご意見を聞かせていただき修正させていただきます。

- ・実盛川はため池により下流に水を流していない現状に対して、ダムにより水を流すといった表現にした方が、ダムの設置理由として、わかりやすいのではないかと。

(事務局) ご意見をふまえて修正します。

- ・今回、ご指摘のあったところについては改良・修正をしていただくこととしてこの形で整備計画の案として了解する。

### (3) 今後のスケジュール及び平城圏域（原案）の公開と住民意見の聴取について

#### ●事務局より資料により概要説明。

○各委員から今後のスケジュールについて次のような意見があった。

- ・できるだけ可能な限り委員の先生方が多く参加していただくように日程調整していただきたい。

○各委員から原案の公開と住民意見の聴取について次のような意見があった。

- ・まず、原案を公開し、住民意見を聴取した上で、この委員会に諮られるということですね。

(事務局) そのように考えております。

- ・奈良県らしい聴き方を工夫して、何か追加のものを今回の平城圏域については試みる必要があると思う。

(事務局) 多く住民の方に整備計画を理解してもらい、多くの意見がいただけるよう工夫します。

### (4) 平城圏域の概要について

#### ●事務局より資料及びプロジェクターにより概要説明

○各委員から平城圏域について次のような意見があった

- ・水量が少ないこと、水質問題の状況をふまえたとき、様々な内容を検討しなければならない感じがする。
- ・水質改善のために、浄化センターの水を上流へ持っていくということは検討できないか。
- ・川づくりの中に、歴史性を取り入れるところ、水路として整備するところといったようなすみ分けが必要かもしれない。
- ・ダムは水量管理・水質管理といった管理面からいくと意味がすごく大きいと思うが、岩井川ダムはどうか。

(事務局) 岩井川ダムには、洪水を調節する治水だけでなく、渇水の時に下流の生物や環境が保たれるように水を流す目的があります。

- ・川づくりにメリハリをつけるには住民との合意形成が必要である。
- ・歩いている人間のスケールで川づくりを進める。ヒューマンスケールで見た視点での整備が必要と考える。
- ・次回は、環境や利水について内容を濃くした説明をしていただきたい。